平成20年度 福島県地域づくり総合支援事業

福島県

浜通り 中通り 会津

開催日

9/22(月)・23(火)

2日間

産業観光 モニタリングツアー

（詳細は裏面をご覧下さい。）

このツアーは・・・

福島県の３地域（浜通り・中通り・会津）を横断する、それぞれの地域の産業に触れるツアーです。炭鉱として隆盛した常磐炭田の遺産、中通りの発展の基礎となった安積疏水、会津地域でのさまざまな伝統的ものづくりの現場や近代遺構等、県内には多種多様な産業が起こりそして根付き今日に至っております。

今回のこのツアーは、福島県の魅力を近代産業遺産・遺構、現代まで続くものづくりという、正にその地域でしか見て触れることのできない資源にスポットをあてた観光を楽しんで頂くものです。

名所旧跡等を巡るこれまでの観光と趣向を変えた【産業観光】ツアーを是非お楽しみ下さい。

※今回のツアーは、参加頂いた皆様からご意見を頂き、今後の観光施策や事業に活かしていくためのモニタリングツアーとして企画しております。

産業観光って何？

歴史的・文化的価値のある産業文化財（古い機械器具・工場遺構などの産業遺産）や生産現場（工場、工房等）、産業製品などを観光資源とし、それらを通じてものづくりの心に触れるとともに、人的交流を促進する観光活動です。

（㈳日本観光協会：産業観光推進会議報告書より）

●浜・中・会津 産業観光見学先紹介●

常磐炭田遺跡群

江戸時代末期に発見された常磐炭田は、昭和32年に年産430万トンの石炭産出量を誇った本州最大の炭田でした。
燃料需要の変化によって昭和60年に全鉱山が閉山しましたが、当時の鉱口跡や選炭場跡、専用線路跡などの遺産群が現在も保存されており、わが国の近代化を牽引したかつての面影を今に伝えています。
これら常磐炭田遺跡群は平成19年11月に、経済産業省から近代化産業遺産の認定を受けました。

安積疏水十六橋制水門

安積疏水（あさかそすい）十六橋制水門は、猪苗代湖から日橋川へ自然流出していた水をせき止め、安積疎水に水を流し安積平野開拓の為に建設された水門です。
「じゅうろくきょう」の名前は天明6（1786）年会津藩主松平容頌が十六径間の石造アーチ橋を架けたことに由来します。
オランダ人技師ファン・ドールン氏の指揮監督の下、明治12（1879）年に建設が始められ、明治14年には初めて猪苗代湖の水が太平洋側に流れました。これにより、安積の荒野が農地に変貌、今日の郡山発展の基盤となりました。

東京電力 猪苗代第二発電所

急増する首都圏の電力需要に対応する為、明治44年に設立した猪苗代水力電気が、猪苗代第一発電所（大正３年建設）と同時に申請し、大正７（1918）年に第二期工事として建設された発電所です。発電機は横軸タイプが採用され、機械器具は第一発電所の外国品に対して国産品が採用されました。水車発電機が５台、当時は24,000キロワットの出力を有し、発生した電力を東京（田端）までの長距離送電を行い、京浜工業地帯発展の原動力になりました。
現在も、当時のレンガ造りの建物などその姿を残しています。

喜多方市「煉瓦焼十連登り窯」

喜多方市郊外の三津谷にある登り窯は煉瓦造りの十連式の構造となっており、間口4.5メートル、奥行き18メートルで一度に9000個の煉瓦を焼くことができます。
明治23年に樋口市郎氏が建造し、当初は７段の窯でしたが、二代目の喜市氏によって十連式となりました。
磐越西線のトンネル、加納鉱山の坑道、周辺の煉瓦蔵や風呂の材料となる煉瓦を焼いていました。

会津若松市内 ものづくり産業とまちなみ

会津若松市は、古くから雄大な自然とものづくりに育まれた街です。
街のシンボルである鶴ヶ城の北出丸から中心市街地へ伸びる北出丸大通りは平成11年に「都市景観百選」に選ばれ、またかつての会津五街道のひとつであった七日町通りは現在は大正ロマンの雰囲気たっぷりの情緒ある通りとして観光客の方々から人気を集めています。
又、それぞれの通りには会津清酒の蔵元や会津絵ろうそく・会津木綿工場などが数多く存在し、かつての城下町に思いを馳せることができます。

高柴デコ屋敷

高柴デコ屋敷は、かつて三春藩により保護されてきた工人たちの集落。約300年ほど前の江戸時代元禄年間に京都の方から来た者が、張子人形作りを伝えたのがそのはじまりといわれています。
高柴デコ屋敷周辺には、張子人形の塗料に使われる「にかわ」のかおり（環境省制定・かおり風景100選選定地）が漂い、工人の里ならではの情緒を醸し出しています。